

電車の中での出来事

所用時間

70分

対象

小学校高学年以上

ねらい

- 人権作文「人との接し方」に登場するおばさんの言動や、まわりの乗客の行動などを考えることを通して、思いこみや決めつけの怖さを知るとともに、人との接し方について考える。

準備

作文「人との接し方」(法務省人権擁護局・全国人権擁護委員
連合会主催 第28回全国中学生人権作文コンテスト 法務事務
次官賞 兵庫県・洲本市立由良中学校2年 山本捺美)
ワークシート「電車の中の出来事」筆記用具(個人)

進め方

導入

10分

- 1 アイスペイクを行い、グループを作ります。
 - ファシリテーターも参加するとよいでしょう。
 - 1つのグループが4～5人になるようにします。

展開

50分

- 2 作文をファシリテーターが途中まで読みます。(5分)
 - コンテスト名、受賞名、作者名などを紹介してから読みます。
 - 作文資料はまだ配布しません。
発問:「これから中学生の人権作文を読みます。(作文の紹介)途中まで読みます。よく聞いていてください。」
 - 1枚目の終わり「とても、尊敬できる人だなあと思いました。」まで読みます。
- 3 ワークシートに感想を記入します。(5分)
発問:「ここまで聞いてどんなことを思いましたか?感想を記入してください。」
- 4 グループで発表し合います。その後、各グループの代表者が発表します。(18分)
発問:「それではグループ内で感想を発表し合い、意見交換をしてください。その後で発表してもらうので代表者を決めておいてください。」
 - グループの代表者に、どのような意見が出たか発表してもらいます。
 - 時間をみながら質疑応答の時間もとります。

展開

- 5 作文の後半部分を読みます。(2分)
発問:「いろいろな感想ができました。それでは、作文の続きを読みたいと思います。お聞きください。」
○ゆっくり朗読する
- 6 感想を記入します。(5分)
○ここで作文を全員に配ります。
発問:「この作文を通してどのようなことにお感じになったでしょうか。感想を記入してください。」
- 7 グループで発表し合います。その後、各グループの代表者が発表します。(15分)
発問:「それではグループ内で感想を発表し合い、意見交換をしてください。その後で発表してもらうので代表者を決めておいてください。」
○グループの代表者に、どのような意見が出たか発表してもらいます。
○時間をみながら質疑応答の時間もとります。

振り返り
10分

- 8 本日の学習の感想を記入します。何人かに発表してもらいます。
発問:「本日のワークショップはいかがでしたか。学んだこと、気づいたこと、感想など何でもよいのでお書きください。」
○何人かに発表してもらいます。どれも認めながら進めていきます。特に、気づきや自分を見返して、明日からの行動に生かしていこうとするような感想は大いに認めてください。

留意点

- 途中で一度考えてもらうために、資料の作文は全部朗読が終わった段階で配ります。6の段階の感想は、作文を読みながら書いてもらうようにしてください。ワークシートのみ初めに配っておいてください。
- 朗読は、情景が浮かぶようにゆっくり気持ちを込めてファシリテーターが読むようにしてください。
- 作文を初めに配っておいて、27ページを見せないで進める方法もあります。

ワークシート 「電車の中での出来事」

氏 名	
1 感想を記入してください。	
2 感想を記入してください。	
3 ワークショップを終えての感想を記入してください。	

「人との接し方」

兵庫県・洲本市立由良中学校 2年 山本 捺美(やまもと なつみ)

私の住んでいる町には、電車がありません。バスも、便が一時間から二時間に一回などととても少ないので不便です。だから、私はあまり、バスや電車などでのマナー違反をしている人を見かけたときがありません。

この前、家族で出かけたときに電車を使うことになりました。私たち家族が、電車に乗ったときは、もうすでに満員で座席は一つも空いていませんでした。私は背が低くて、つり革には届くか届かないかだったし、満員だったので、近くにあった乗車出入口の手すりにつかまっていました。どこから乗ったのか、誰が見てもチャラチャラしてると言えるような、高校生ぐらいの女の人が、優先座席に座って、耳にイヤフォンをつけ、携帯電話をさわっていました。優先座席は、お年寄りや体の不自由な人、妊婦の人たちの特別な席です。しかし、このチャラチャラとしている女の人は、顔色もとても良く、まったくどこも悪くなさそうなのです。私は、この女の人がどうして優先座席に座っているのか不思議に思っていました。

しばらくして、たくさんの荷物と、杖を持った一人のおばあさんが乗ってきました。おばあさんは空いている席がないかあちらこちらを見回していましたが、あきらめて、あの女の人が座っている座席のすぐ横の手すりにつかまりました。電車が大きくゆれ、そのたびにおばあさんがよろよろと杖にもたれかかりました。そのそばで私は危ないなあ、あの女の人に何も言えない私はなさけないなあなど、いろいろな思いをいだきながら、見続けていました。それでも優先座席に座っているあの女の人には下を向いたまま横にいるおばあさんに、座席をゆずろうとはしません。すると口々に周囲の人たちが、

「あの子、まだ若いんだから、おばあさんに席をゆずってあげればいいのにねえ。」

「ほんとねえ。あの子には思いやりってものがないのかしら」

などと、こそこそ話しているのが聞こえました。あの女の人にも十分聞こえそうならいいや、あの女の人に聞かせるように周りの人たちは口々に話しているのだろうと私は思いました。それでも、あの女の方は、おばあさんに座席をゆずろうとしないのです。今でいうKY。空気が読めない子なんだなと私は思いました。すると女の子の横に座っていたおばあさんが、

「ねえーあなた、そちらのおばあさんに座席をゆずってあげなさいよ。優先座席は、お年寄りや体に障害をもった人たちのために作られた座席でしょう。おばあさん、こんなに荷物、持っておられるのよ。ねえ、ほら。」

と少し厳しい口調で、女の人に言いました。私は、こんな大人の人にあこがれます。とても、尊敬できる人だなあと思いました。

すると、乗客の冷たいまなざしが、みな、その女の人に向けられました。女の人は何も言えずに、目に涙をたくさんため、じっとうつむいたままでしたが、やがてそろそろと立ち上がりました。そして、おばあさんに席をゆずろうとして立ち上がり、一步足を踏み出した時私は「はっ。」と思わず声を出してしまいました。これまでの、ざわめきも一瞬のうちに消えました。この女の方は足が不自由だったのです。左足をひきずり、よろよろとしながらあわてて逃げるように次の駅で降りました。電車の中は静まり返ってしまいました。さっき注意をしたおばあさんは、気まずい表情をして、うつむいたまま黙ってしまいました。

しかし私は、おばあさんのとった行為や発言は必ずしも悪いことではないと思います。おばあさんのことを考えて、周囲の思いを代弁して、おばあさんなりの良心にしたがって行動したことは、無関心、不干涉の現代においては大変意義のあることではないかと思いました。では、おばあさんはどうすれば良かったのか、あるいはどうすれば、女の方は傷つかずにすんだのだろうか、「思いやりをもって人と接するということ」はどういうことだろうか。

それは相手の気持ちを考えた行為や言葉かけをし、決して自分の勝手な思いこみをしないで、行き違いが生じたときにはすぐに反省し軌道修正をすることだと思います。もちろん優先座席云々関係なく座席をゆずるということは当然すぎる良識ですが。私は、この場にいたことで、思いこみや決めつけ、先入観は、お互いを傷つけることになるということを知りました。たとえ自分の良心にしたがった行動が思わぬ結果を招いた場合でも、すぐに反省をし軌道修正をすることが大事だということを知りました。